おうづか　せんぼうやまいせきぐん

王塚・千坊山遺跡群

国指定史跡

婦中町羽根・長沢・新町・富崎・千里地内

史跡王塚・千坊山遺跡群は、富山湾から約 12km 内陸に入った井田川・山田川合流域の丘陵や河岸段丘上に分布する、弥生時代後期から古墳時代前期の墳墓や集落跡の遺跡 7 ヵ所で構成されています。

史跡には、日本海を通じた交流を物語る四隅突出型墳丘墓や、前方後方形墳丘墓、県内有数の大型前方後方墳、様々な形の古墳で構成される古墳群などがあり、他地域との交流関係や婦負地域を統括した首長が誕生するまでの移り変わりを知ることができます。また、古墳や墳墓のなどの墓域と集落跡の対応関係もつかめることから、古墳時代にむけて地域社会がまとまっていく様子が具体的に分かります。このような遺跡は全国的にみても珍しく、北陸における国の成立を考える上で重要な資料です。

構成：王塚古墳（前方後方墳）勅使塚古墳（前方後方墳）千坊山遺跡（集落跡）向野塚墳墓（前方後方形墳丘墓）六治古塚墳墓（四隅突出型墳丘墓）富崎墳墓群（四隅突出型墳丘墓群）富崎千里古墳群南群（前方後方墳、方墳、円墳）

[四隅突出型墳丘墓（よすみとっしゅつがたふんきゅうぼ）]

婦負地域の大きな特徴である弥生時代の墓で、六治古塚墳墓、富崎墳墓群など複数確認されています。山陰に起源のある墓であることから、日本海を通じた交流が考えられます。

[前方後方墳（ぜんぽうこうほうふん）]

古墳時代の墓のひとつの形態で、勅使塚古墳や王塚古墳といった王墓が、この形の古墳を採用しています。近畿を中心とする西日本には前方後円墳が多くありますが、富山県を含めた東日本の古墳時代前期には前方後方墳が多く築かれます。

[集落跡]

婦負地域では、弥生時代後期の鍛冶町遺跡と富崎赤坂遺跡・鎧山砦遺跡に最初の集落が現れます。その後、弥生時代終末期を経て古墳時代前期まで、千坊山遺跡をはじめとした複数の集落で人々が生活していました。これらの集落をまとめたリーダーが、四隅突出型墳丘墓や前方後方墳に葬られたと考えられます。

千坊山遺跡の竪穴住居跡

[出土品]

集落からは主に日常生活に使う土器が、墓からは儀式に使用した土器が出土しました。日常生活用の土器は、煮炊きや貯蔵、盛付けに使われ、ススが付いたものもあります。儀式用の土器は、赤く塗られたり、丁寧に磨かれたりしていて、埋葬の儀式に使われました。

千坊山遺跡の竪穴住居から出土した土器

勅使塚古墳から出土した土器（富山県埋蔵文化財センター保管）

赤に白抜き字が国史跡です。

婦中ふるさと自然公園
ハイキングモデルコース
[約 3 キロ　所要時間 約 2 時間]

各願寺 → ふるさと創生館 → 王塚古墳 → 五ツ塚古墳 → 勅使塚古墳 → 各願寺

王塚古墳

古墳時代前期に築かれた前方後方墳です。全長は58mで、谷を挟んだ南側にある勅使塚古墳とともに婦負の国の王墓と推測されます。

勅使塚古墳

古墳時代前期に築かれた県内最古の大型前方後方墳です。全長60mの規模は、前方後方墳としては県内2番目の規模を誇り、墳頂部には8.1m×6.2m以上の墓坑が確認されています。

向野塚墳墓

弥生時代終末期の前方後方形墳丘墓で、全長は25.2mです。墳丘の形から四隅突出型墳丘墓から前方後方墳への移り変わりが伺えます。

富崎千里古墳群

古墳時代前期の県内有数の古墳群です。南群14基（前方後方墳1基、円墳1基、方墳12基）と北群3基（方墳3基）から構成されます。多くの古墳が並ぶ光景は圧巻です。

富崎墳墓群

弥生時代後期から終末期の四隅突出型墳丘墓3基からなります。1・2号は並んで築かれ、1号墓は一辺21.7m、突出部は長さ6m、幅9mで、2号墓も同様の規模です。1・2号墓と谷を挟んだ南東に3号墓が残ります。3号墓は、一辺22m、突出部は長さ4m以上、幅約12mで、県内最古の四隅突出型墳丘墓になります。

千坊山遺跡

弥生時代終末期の大規模集落で、24棟の竪穴住居跡が見つかっています。背後の丘陵にある六治古塚墳墓、向野塚墳墓には、この集落のリーダーが葬られたと考えられます。

六治古塚墳墓

弥生時代終末期に築かれた四隅突出型墳丘墓です。一辺は25m、突出部は長さ7.8m、幅10.6mあります。